

# 日高の研究活動

研修部長 新冠町立新冠小学校  
校長 中村 等

## 1. はじめに

日高地区校長会は、会員43名の小さな組織ではあるが、これまでの研究活動を継承しつつ、管内課題の解決に向けた、具体的な研究を目指してきたところである。本年度は、昨年度策定した2か年の研究計画の2年次目として、日高管内の最重要課題である「確かな学力の育成」に向けた学校経営と教育課程経営に関する校長レベルと町校長会レベルでの指導性の発揮に重点を置き、仮説検証型の研究活動を進めている。



## 2. 研究計画

(1) 基本主題・副主題

(2) 研究課題

(3) 研究の領域及び視点・仮説・研究内容

※(1)～(3)については、資料1を参照

(4) 研究方法

- ①町校長会は、地区校長会研修計画に基づいて、自町の課題・解決の視点・研究の仮説・達成目標や実践内容を設定するとともに、研究の組織や体制を確立し、自町の研究計画としてまとめる。
- ②各町の研究内容の共通性を高めるために、管内統一の研究計画フレームや提言資料フレームを設定し、活用する。
- ③共通研究内容は、学校経営・教育課程の両領域において研究内容として位置付けることができる。

【資料1】 日高地区校長会 平成24、25年度 研究全体構造図



- ④各町は、分科会別研究内容から実態に基づいて必要な研究内容を選択し、町としての研究計画に位置付ける。
- ⑤各町の計画や実践を、研修部長研修会及び管内校長研修会において交流・検証し、研究の充実と日常実践への反映を図る。
- ⑥継続研修としての効果を高めるために、2年間で4つの実践ステージに分け、学校経営の継続性と連動させた研究体制・計画を取り入れる。また、その終わりに評価機会を位置付ける。

### 3. 研究活動の概要

#### (1) 研修部長研修会による交流・共有

地区校長会としての組織的な研究と、各町・各校の実態や課題に即応した具体的な実践をバランスよく進めるための交流・検討の場として、年間4回の研修部長研修会を開催している。研修計画や実践レポート、自己評価結果などを持ち寄り、互いの実践状況と成果や課題を交流・検討する場として機能させている。

#### (2) P D C A サイクルの活用

より自町や自校の実態に合致した取組を行うことを目指し、研究期間を4つのステージに分けて設定した。このことにより、研究計画全体でのP D C Aサイクルと合わせて、各ステージごとでもショートのパワーサイクルを機能させている。具体的には、各ステージごとに全会員による自己評価アンケートを実施し、その検証結果から次ステージに向けて計画を修正し、実践している。また、9月に実施した第3ステージの自己評価アンケートでは、第1、第2ステージで評価してきた校長自身や自町校長会の指導性の発揮状況に加え、自校における具体的な学力向上策の進捗状況を、本研究活動と関連付けて管内的な実態把握を行い、共有を図ったところである。

#### (3) 管内校長研修会による検証

1月8日（金）、9日（土）の2日間にわたって、管内校長研修会を開催し、第2・第3ステージにおける各町の実践状況を持ち寄り、研究課題の究明に向けて研究協議を行った。全体会では、第3ステージの評価結果の説明と管内7町の研究発表により、研究活動の具体や進捗状況の共有を図った。また、分科会協議では、担当町の研究発表と関連付けながら、協議の柱に基づいて校長自身や各町校長会としての指導性の在り方について研究協議を深めた。



また2日目は、元登別市立幌別小学校長の細川勝紀氏に講演をお願いし、校長としての経営姿勢についての研修を深めたところである。

### 4. おわりに

日高地区校長会では、管内の最重要課題である「学力の向上」をテーマとし、2年間にわたって研究活動を進めてきた。先に実施した第3ステージの評価結果では、具体的な学力向上策への取組が、各校レベルにおいても確実に拡大・充実してきている状況が確認できたが、必ずしも子どもたちの学力向上に結び付いていない実態も報告されたところである。各校長が、改めて自校の学力実態や取組状況を検証し、より実効性のある取組に高めるべく残された4ステージの研究活動に臨みたいと考えている。